

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム 小春日和		
所在地	亀山市南野町12番13号		
自己評価作成日	平成22年 2月15日	評価結果市町村提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490400013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街で住民の方々が温かく気さくに入って来て下さり、季節の野菜を頂いたり、散歩支援・買い物支援時にも利用者との声掛け、交流が頂ける地区である。建物は既存建物をリフォームした物で広さには難を感じるグループホームであるが、それが最高のリハビリホームと生きている。行き届いた手摺の設置、歩行訓練に最良の幅の階段、何処を取っても「動けるかも」と思える空間、その中で密な職員の見守りに車椅子を捨てて主体的・自立してリハビリ歩行生活を楽しまれている。又、個別のADL能力や趣味を生かした活動発揮も肌の温もりを感じる中で各々が主体的に楽しみつつ参加。発見があり、利用者同士の関わりも微笑ましく、名実共に小春日和グループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の生まれ育った地域のため、利用者も地域の活動への参加や近所づきあいなど、地域との交流も活発に行われている。毎日、くつろぎタイムの時間をもち、喫茶メニュー(梅こぶ茶、コーヒー、スポーツドリンク、番茶、ジュースの中から選択できる)があり、利用者が楽しめるように取り組みアットホームな雰囲気である。代表者が、職員の提案や意見を積極的に取り入れ、実践に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個々人の願い思いを傾聴し受容し尊敬の念を持って接し、その人の望んでいる自立支援を行う事を理念として掲げ、毎月カンファレンス会議を持って共有し実践している。	各職員が理念をもとに傾聴した利用者の思いをカンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりにとっての自立支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近くのコンビニへの買い物時、明るい挨拶と語らいに寄り、近隣の方が季節の野菜を持って来て下さったり、可愛い少女は犬の散歩に入って来て犬と共に笑顔の交流を下さったりしている。	南野町、野村町、北野町合同のコミュニティ文化祭に利用者が作品を出展している。地域の祭りの時には、事業所をトイレ休憩所として開放し、地域の人々に来てもらい交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回「小春日和スナップ」を自治会長・民生委員を介して渡し、認知症の人の理解になればと思っている。又、地区の祭りの神輿の休憩場所に提供し、身近に接しての理解を頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意向に添った話し合いが出来る様に「小春日和スナップ」のレジメを配布し有意義な会議を行っている。	市の担当者と日程調整を行い、自治会長、民生委員、家族代表、利用者が参加し、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者は、月1回施設へ来られて話し合ったり、市回報に施設紹介下さったり、包括支援センターとの情報交換、指導を頂き施設パンフレットを置かせて頂いたりしている。	運営推進会議で市の担当者と連携し、鈴鹿亀山広域連合の担当者の適宜訪問を受け、情報交換や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクを恐れず玄関等の施錠はしないで積極的に出掛けられる事を勧めている。危険性は常に考えられるが、常に肌の温もりを感じる、温かい距離しかない当施設の強みで、全く自由行動が生き生き保障されている。	自由な暮らしを大切に支援するため、半年前から玄関の鍵を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止キャンペーンの下敷きを全職員に配布し話し合いをしてる。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業所、成年後見制度については現時点では必要性がないので話し合っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を丁寧に読み説明して理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3~4日に1回は面会に来られる御家族様もおられ、共にお茶・食事をして頂きつつ、気さくな語りの中で吸い上げた意見や利用者の意見を反映した生活(レク・行事等)に心掛けている。	歌が好きな利用者の希望を取り入れ、食前に歌うことで口腔ケアとして取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改まった席は設けていないが業務を通し、又折り合る毎に意見・提案を聴いている。	業務提案制度を設け、職員休憩所にファイルを設置し、提案された意見を積極的に取り入れていたが、最近では直接代表者に意見を言うことのほうが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を世間並み以上にすることに心掛けている。定着率高い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自、仕事を通してより良いケアを考え実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの知識・技術・経験が業務遂行する中で伝授されている。又、地域の研修会には極力参加して、グループミーティングして質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設の利用前に、幾度か本人の利用されている施設(病院・家庭)へ伺い面談。思い・願いを傾聴し、計画ニーズに反映すると共に、来所して頂き心理的負担を掛けない入所に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設の利用前に、幾度か本人の利用されている施設(病院・家庭)へ伺い、アセスをさせて頂き計画ニーズに反映した計画を説明し、入所前の来所時及び家庭に伺い、話合い・確認して頂きオープン支援に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族面談に寄り思い・願い・状態・生活歴史等を十分傾聴したアセスを元にした、暫定計画を入所前に説明・話合い、より良いサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念が「傾聴し受容し尊敬の念を持って自立支援を行う」事を旨としているので、主体性の尊重・自己決定の尊重支援の喜びを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3～4日に1回は面会に来られる御家族様もおられ、共にお茶・食事をして頂きつつ、気さくな語りの中で吸い上げた意見や利用者の意見を反映した生活を、又、余り面会に来られない家庭へは近況報告の手紙を送らせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問に寄る(家族・本人)面談でアセス時、一人一人の暮らし振りを把握し、尊敬し日々の生活(行事)の中で、さりげなく生かす支援している。	初詣の時には、その神社に詳しい利用者に説明を任せたり、剣道の弟子が入替わり面会に訪れるなど、馴染みの関係を大切に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人症状を異にする仲間。ふとした事が相手を傷付ける事は有るので、必ず職員が利用者の狭間に入り、円滑に仲良しの輪が図れる様、仲立ち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	已む無く当施設を退所(医療支援)者の、次の施設へのアドバイスをさせて頂いたり、その施設へ伺い本人・家族との語らい、友好に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当施設理念で有る「傾聴し受容し尊敬の念を持って節度有る自立支援をする」事を、全職員がカンファで深めつつ努めている。	各職員が情報収集したことを出しあい、カンファレンスで本人にとって何が一番最良であるかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規に当施設利用時、アセスメントシートに記録。入所前カンファ会議で共有し日々のサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当施設理念を持って日々の生活の関わり(普通の生活・穏やかな安全な生活)の中で、心身状態変化・残存機能変化等、きめ細やかに接し報・連・相に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の面会時に思い・願いを聞くと共に、全職員(カンファ原資料・モニタリング原資料)記入し、提出。その「まとめ資料」を元にカンファ会議を持ち、皆の意見やアイデアを反映した計画を作成している。	利用者のできること、喜ばれること、気づいたこと(困ることや対応について)をカンファレンス資料として各職員が提出し、それを基に検討する。3か月毎のモニタリングは、職員全員で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の職員が参加する計画なので実践・工夫・モニタリングには熱意を持って「原モニタリング」に記入されている。又、日々の気づき等記録だけでなく都度、報・連・相でミーティングして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の希望に寄る外出・ドライブ・好きなお菓子の買い出し、医療機関への受診等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニへの買い物、近くの散髪屋へ行ったり主張して貰ったり、オカリナボランティアに毎月来所して頂いている。地区のコミュニティの催しを散歩かたがた見学させて頂いたり、地区の祭りの休憩所に提供したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医及び以前からの掛かり付け医へ、全員何らかの治療の為受診している。従って定期的に検査受診と記録を取り適切な医療受診支援している。	職員が付き添い、受診や通院支援を行っている。必要に応じて、家族には状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師とはいつも連携し、日常の関わりの中で、体調変化時は協力医及び掛かり付け医へ、電話・受診で適切な健康管理支援してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はその医療機関との情報を共有し、連携を取り足を運び安心支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家庭や医療機関と情報を共有し、出来る限りの支援を旨としている。過去(1年前)終末期を当施設でと願われ、過ごされた方の経験がある。状況に応じては、家族や利用者の為に果たせる役割の有る事が確認されている。	医療行為が必要でなければ、その都度家族と相談しながら、できる限り終末期も受け入れていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、現時点の利用者の疾病・治療とその進行悪化症状・薬剤等はカンファレンス会議で共通理解を図っている。少しでも不安を感じる時は協力医・掛かり付け医への電話・受診し、手遅れのないよう支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的火災・防災の避難訓練は実施している。自治会・近隣者への声掛けには心良い協力を頂いている。又、火災報知器の設置も検討中である。	年2回避難訓練(通報、消火、誘導を含む)を全職員参加で実施。防災については、次回の運営推進会議の議題として検討する予定。	早期の火災報知器若しくは、火災通報装置の設置が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報をもとより関わりの中でプライバシーの侵害にならない様に配慮し、個人情報の取り扱いには充分注意している。又、人生の先輩者として生きて来られた、大切なプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。	トイレ誘導時の言葉かけや対応に配慮したり、プライバシーの保護のため、休憩の場所にカーテンを設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	和やかに話せる雰囲気は、職員の明るく楽しい笑顔に寄る。傾聴し受容し尊敬の念を持って、節度ある自立支援である当施設理念実現と全職員心掛け、その関わりで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向に沿う介護、一人ひとりの暮らしを尊重する事がその人の暮らしを支えるものと考え、自主性を重んじた支援に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人を尊重した身だしなみ、おしゃれは1日の生活リズムをつくる為にも起床時や外出時、入浴更衣時必要と考え主体性を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食自炊、昼・夕食配食、マンネリ化防止と季節感や食生活の充実の為に、自家栽培の野菜や季節料理を適宜取り入れ楽しんでいる。利用者は準備や後片付けにそれぞれの能力に応じ参加している。	月1回は、利用者の希望による特別メニューを作る。年4～5回は、利用者全員と職員で外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下に、栄養摂取や水分確保に配慮し、楽しみつつ美味しく摂取される様、その方に応じた盛り付け等工夫支援している。又、その状況の記録把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ていないと、肺炎等の重篤な疾患に繋がる危険があるので、三食後は残歯はブラッシングを、義歯は洗浄と歯茎のマッサージと嗽を能力に応じて行う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録パターンに応じ、個別に持てる残存能力を補う自立排泄支援をしている。	利用者全員がオムツ使用しているが、その人の排泄パターンに応じて、トイレ誘導を行っている。夜間ポータブルトイレは、3名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録より便秘気味の体質者も自然便通を良くするヨーグルト・牛乳・食物繊維の多い物、汁物等に配慮する支援を継続してる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴を基本にし、週2回の入浴とシャワー浴の併用で、身体の清潔・爽快感を味わっている。	リフト浴の設備と浴槽の底には、職員のアイデアで取り入れた、滑り止め防止のマットが貼ってある。月曜日、金曜日の1時～3時すぎが入浴日となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援、自ら休みたい時に休む休息支援は、メリハリ有る生活・心身の健康保持と心得、個別的に支援してる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は責任者が個別保管・管理の元、間違えない様、毎日個別ケースで徹底支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個別のADL能力や趣味を生かした行動発揮する機会を設けている。それに参加する役割や楽しみ事を発見する支援、生活暦行事等に於いても個々人がより楽しめる支援をしてる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の草取り、近隣へ散歩、コンビニへの買い物支援は無論、紅葉ドライブ・外食等の支援をしてる。	畑やコンビニに行ったり、寒梅を楽しんだりと外出支援に努めている。四季折々には、利用者全員と職員でドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数では有るが、近くのコンビニへ行きたい時に好きなお菓子・飲み物を買に行き支援、主体的興味を示さない利用者の為、近くのドライブインへドライブして好きな物を注文して食したり、店内見学・買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少数ではあるが電話の取次ぎ・手紙・年賀状等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建て物をリフォームのため、共用空間の広さや採光的にやや難点は有るが、季節感や馴染みのものを掲示する事で補っている。	共用の空間には、絵画や利用者の似顔絵、文章などが飾られている。食堂兼居間から2階へと続くリハビリ階段があり、日常生活の中で歩行訓練が行える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には難有るが、気の合った利用者同士、居室ベットに掛けて喋られたり、思い思いのソファへ移動して、利用者同士の触れ合いは密である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階6室、1階3室有り全体としてプライバシーの有る居室空間で有る。馴染みの物が飾られ、個室としては快適に過ごせる工夫がなされている。	居室は全室エアコン、ベット、クローゼットの設備がある。利用者一人ひとりの趣味で、テレビや家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が家庭的空間、家庭より安全なりハビリ空間。主体的なりハビリ生活、階段も最高なりハビリ機器として密な支援している。		